学校番号	3001

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	公共	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	私たちの公共（清水書院）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・自己とは何者か、他者と共に生きるとはどういうことかという視点を持つ。
・現代社会の様々な出来事に関心を持つ。
・「なぜ」という視点から現代社会の問題を考える。
・教科書は毎時、持参する。ノートは適時提出を求める。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
現代の社会と人間についての理解を深める。
【思考力、判断力、表現力等】
人間としてのあり方生き方について考察する力の基礎を養う。
良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
【学びに向かう力、人間性等】
良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	現代社会の基本的な問題と人間としてのありかた生き方とに関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身につけている。また諸資料を適切に収集・利用するためのメディアリテラシー能力を身に付けている。	現代社会の基本的な問題と人間に関わる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としてのありかた生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の課題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身につけ、現代社会に主体的に生きる人間としての在り方、生き方について自覚を深めようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	公共の扉	・青年期の人間と社会 ・よく生きるとは何か ・功利主義と正義の原理 ・個人と社会 ・民主主義、立憲主義 ・法はなぜ必要か	a:自らの体験などを通して青年期の課題を知り、伝統や文化に触れて自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することの重要性を理解する。 b:孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として、国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し表現すること。 c:自己の問題、社会の問題を当事者として主体的に捉えて理解し、表現しようとしているか。	定期テスト ノート	定期テスト ノート	観察 ノート
2学期	よりよい社会の形成と参画	・生活と法 ・生活と政治 ・平和主義と日本 ・生活と経済 ・生活と国際社会	a:日本国憲法のもと適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解すること。 b:政治・及び経済などの側面を関連させ自立した主体として解決が求められる主題を設定し、その解決にむけて事実を基に協働して考察したり、構想したりしたことを論拠をもって実現すること。 c:得られた知識をもとに主体的に課題を設定することができている。	定期テスト ノート	定期テスト ノート	観察 ノート定期テスト ノート
3学期	持続可能な	・耕作放棄地の活用 ・情報化社会 ・エネルギー資源	a:共に生きる社会を築くという観点に立って地域や国家・社会の課題を理解すること	定期テスト ノート	定期テスト ノート	観察 ノート

		・持続可能な開発	b:仲間と協働して考察、構想し妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に自分の考えを説明する。 c:主体性をもって課題解決に取り組もうとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度